

今週の為替相場見通し(2023年4月17日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		131.84 ~ 134.04	133.75	131.50 ~ 135.00
ユーロ	(ドル)		1.0832 ~ 1.1075	1.0988	1.0900 ~ 1.1150
(1ユーロ=)	(円)		143.99 ~ 147.15	147.05	145.00 ~ 149.00
英ポンド	(ドル)		1.2346 ~ 1.2545	1.2414	1.2000 ~ 1.2500
(1英ポンド=)	(円)	*	163.82 ~ 166.84	166.09	162.00 ~ 168.00
豪ドル	(ドル)		0.6620 ~ 0.6808	0.6709	0.6650 ~ 0.6950
(1豪ドル=)	(円)	*	87.92 ~ 90.18	89.76	88.00 ~ 91.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 松永 裕司

(1)今週の予想レンジ: 131.50 ~ 135.00 円

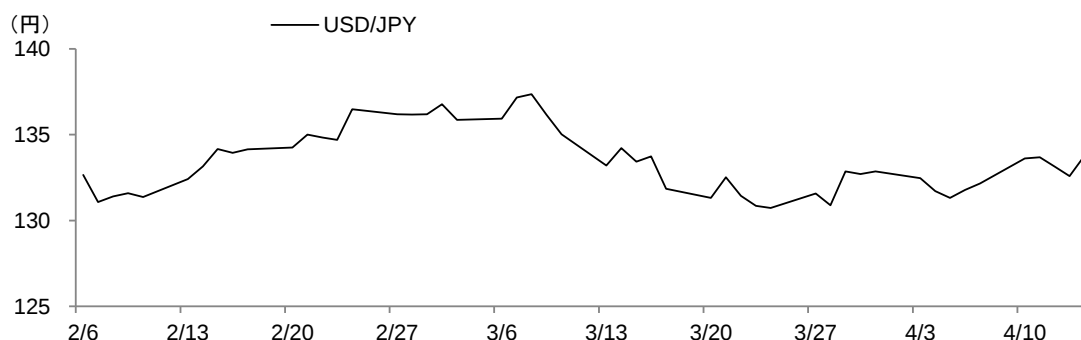
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は、週初に急伸も、週央以降は米物価指標の弱い結果を受け、上昇幅を縮小した。週初10日、132.10円でオープンしたドル/円は、米金利上昇に合わせ132円台後半に上昇。海外時間は一時132円ちょうど付近へ反落も、植田日銀新総裁が就任会見で大規模金融緩和政策の継続を強調する中、円売りが強まり133円台後半に上昇した。11日、ドル/円は米金利低下を背景に133円台前半へじり安推移。海外時間は円の買い戻しを受け133円ちょうど付近に続落するも、その後は米金利反転に追従し、133円台後半を回復した。12日、ドル/円はユーロ/円の上昇が波及し、約1か月ぶりの高値となる134.04円に続伸。海外時間は米3月消費者物価指数(CPI)の結果が市場予想を下回り、米金利の動向とともに一時132円台後半に急落。その後はドルの買い戻しで133円台前半を回復した。13日、ドル/円は米金利続伸を受け、133円台前半でじり高推移。海外時間は、米3月生産者物価指数(PPI)が市場予想を大きく下回ると、米金利低下とともに132円ちょうど付近まで急落。引けにかけては米金利が反転する中、132円台後半に値を戻した。14日、ドル/円は上昇。NY朝方公表の米3月小売売上高などの結果が予想を下回るとドルは弱含むも、その後のウォラーFRB理事のタカ派発言や、米シガン大が調査した1年後期待インフレ率が市場予想を上回ると、133円台後半まで反発、133.75円で越週した。

今週のドル/円は底堅い展開を予想。先週注目された米3月CPIは総合、コア共に市場予想を下回る内容。PPIも弱い結果となり、インフレの伸びの鈍化を期待させる内容となったが、経済のソフトランディングへの期待からリスクセンチメントが改善、米長期金利も小幅に上昇する中、ドル/円は底堅い動きが続いた。今週は21日(金)に米4月製造業/サービス業PMI(速報)が公表予定。3月の結果(確報)は製造業が3か月連続で改善も、5か月連続で50割れとなる一方、非製造業は3か月連続で改善した。直近の金融環境のタイト化の中でも堅調な結果となれば、5月FOMCでの利上げ期待の高まりからドルのサポートになろう。先週はウィリアムズNY連銀総裁やウォラーFRB理事らから今後の金融引き締め継続を示唆するタカ派な発言が見られた。ブラックアウト期間入り前にFRB高官発言から5月会合での利上げの可能性を示したり、年内利下げを否定したりする発言が見られれば、ドル買い戻しにつながろう。米インフレはピークアウトの兆しを見せるも、FRBの金融引き締めスタンスは変わらず。引き続き経済指標の結果に上下する相場が続くそうだが、経済のソフトランディングへの期待や日銀の政策転換への期待後退もあり、ドル/円は引き続き底堅い動きとなりそう。

(3)先週までの相場の推移

先週(4/10~4/14)の値動き: 安値 131.84 円 高値 134.04 円 終値 133.75 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 鈴木 智大

(1) 今週の予想レンジ: 1.0900 ~ 1.1150 145.00 ~ 149.00 円

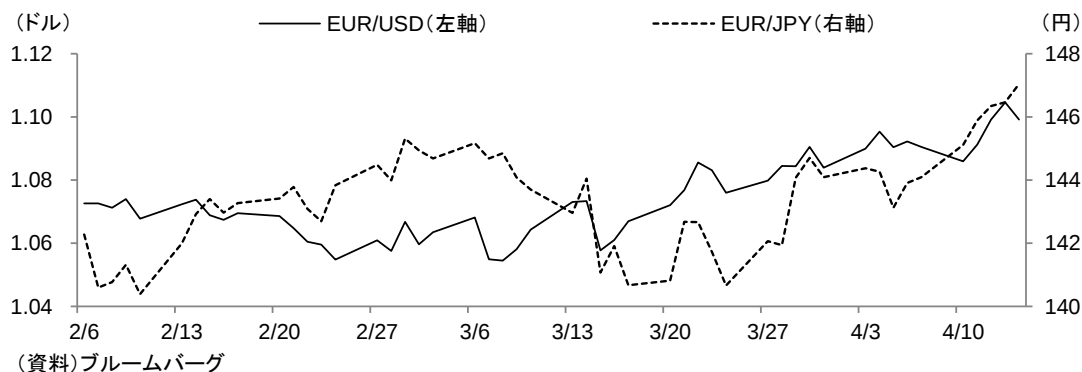
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロは週初下押し圧力が強まるも、その後上昇に転じると年初来高値を更新。ただ週末にかけてやや値を下げる展開となった。週初10日のユーロは1.0914でオープン。イースター休暇で比較的流動性の低い中、植田日銀新総裁が会見で当面の緩和継続を示唆。ドル/円が大幅に上昇する流れに押され、ユーロは一時週間安値となる1.0832まで下落するなどドル買いが優勢。11日は徐々に水準を上げるも、特段目新しい材料のない中、1.09を挟んで方向感のない値動きに終始。12日は米3月CPIを控えてしばらくは動意に欠ける展開も、その米3月CPIが予想を下回る結果となると全面ドル売り。その後に発表されたFOMC議事要旨で「多くの当局者がピーク金利見通しを引き下げ」など、ハト派色の強い内容が確認されたことも拍車をかけ、ユーロも1.10ちょうどまで水準を上げた。13日は前日と同様の流れから底堅い推移が続く中、米3月PPIや米新規失業保険申請件数の軟調な結果、ECBメンバーのタカ派な発言もあり、1.10台半ばまで上昇。その後も高値圏での推移が続いた。14日は年初来高値値となる1.1075をつける場面も見られたが、その後の伸び悩むと米国時間のミシガン大学消費者マインドの結果にドル買いが強まり、1.09台後半まで急落。その後の買戻しも一部に留まり、1.0988で越週した。

今週のユーロも引き続き底堅い推移になることを予想する。米国では米3月CPIの結果により、緩やかではあるもののインフレの鈍化が確認された。Fed高官にもハト派転換と捉えられる発言が目立ってきており、近い将来の利上げ停止が現実味を帯びてきている。金利の優位性の剥落に加え、その他の経済指標も雇用者数を除き冴えない結果が続いていることから、景気の先行き不透明感も強まってきており、ドルの軟調推移がユーロのサポートになるといえよう。また欧州圏は、エネルギー価格の下落に伴いインフレの全体感は落ち着きを見せているものの、コア部分は依然として高止まりが続いている。こうした現状から、先週もECB副総裁やフランス、オーストリア等の各国連銀総裁から、今度の利上げ見通しにおいてタカ派な発言が相次いでおり、今後当面米国との金利差は縮小していくことが想定され、ユーロの堅調な推移に寄与していくものと考えられる。今週の主な経済指標として、18日(火)に独4月ZEW調査現状指数/ZEW景気期待指数、21日(金)にユーロ圏4月製造業PMI速報/サービス業PMI速報の発表が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(4/10~4/14)の値動き: (対ドル) 安値 1.0832 高値 1.1075 終値 1.0988
(対円) 安値 143.99 高値 147.15 終値 147.05



3. 英ポンド

欧州資金部 中島 將行

(1) 今週の予想レンジ: 1.2000 ~ 1.2500 162.00 ~ 168.00 円

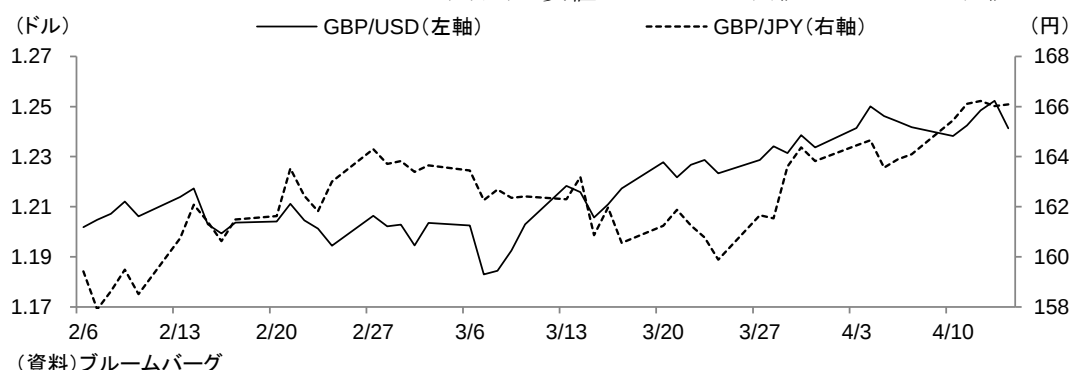
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、対ドルで見て10日(月)から14日(金)早朝にかけて上昇が続き、今月5日以来となる1.25をいったん回復したが、14日午前中からは一転して下落に転じ、週初の水準まで押し下げられている。一方、対円では、10日の植田日銀新総裁の就任会見を受けて円安が進んだことを受けたポンド/円の上昇を週間を通してキープした格好となった。対ドルで見たポンド相場の展開を決定づけた要因は、やはり、米国の経済指標並びにFRBの金融政策に対する市場の思惑であっただろう。とりわけ、市場の注目度が高かった12日発表の米3月CPIは前月比+0.1%と市場予想の同+0.2%を下回り、さらに2月分の伸びも0.1%下方修正されたこともあり、グローバルにドル安が進行した。同日公表されたFOMC議事要旨で、米銀の破綻などの銀行不安を受けて、FOMC参加者のうち数人が政策据え置きを検討していると記述されたことも、こうした市場の動きを後押ししただろう。しかし、14日発表の米3月米小売売上高は燃料や自動車を除けば底堅い結果であり、米4月ミシガン大消費者消費者インフレ期待(1年先)は3月の3.6%から4.6%へと大きく上昇した。同日には、ウォラーFRB理事から根強い高インフレを鈍化させるために一段の金融引き締めが必要という考えが示されている。英国では、イングランド銀行のベイリーBOE総裁およびチーフエコノミストのピュー氏の発言が注目された。ベイリー総裁は12日の講演で、金融安定性へのリスクによって同中銀がインフレとの闘いから注意をそらすことはない、と述べた。また、13日にピュー氏は、低水準の失業率が労働者に消費の余裕を生み、「プラスの需要ショック」が英国で見られる可能性があるとして述べている。いずれもインフレ警戒的な発言であり、5月BOE会合での追加利上げを支持する内容として位置づけられる。

今週の英ポンド相場は、対ドルで下落を予想。先週に対ドル1.25の節目の水準に到達後、その水準をキープできなかったことで上値の重さが市場で意識されたと見られ、先週終盤のドル高の流れを引き継ぐ形で下落圧力が続く公算が大きい。対円ではドル/円相場次第だが、日銀新体制が金融政策の正常化に慎重な姿勢を示すなか、対ドルに比べ底堅い展開となろう。対ドルでは、ポンドの値動きは引き続き、米国の経済指標・FRB高官発言に左右される展開が続くと見られるが、今週は英国における重要経済指標の発表や、イングランド銀行理事による講演も多く控える。経済指標では、19日(水)に発表される英3月消費者物価指数(CPI)が最大の焦点となる。ブルームバーグ集計の市場予想中央値では前年同月比+9.8%と2月分の同+10.4%から減速することが見込まれているが、根強い賃金の上昇圧力を受けてサービスインフレの高止まりが改めて認識される公算が大きいと見込まれる。一方、21日(金)には英3月小売売上高と英4月製造業・サービス業PMIが発表される。英国の個人消費に減速感が強まるようであれば、先行き賃金の上昇圧力が弱まる可能性が高まったと受け止められ、5月会合におけるイングランド銀行の追加利上げ観測の後退につながる可能性がある。また、イングランド銀行の金融政策決定委員会の委員による講演も17日(月)にカンリフ副総裁、19日(水)にマン委員、翌20日(木)にテンレイロ委員が控えている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(4/10~4/14)の値動き: (対ドル) 安値 1.2346 高値 1.2545 終値 1.2414
(対円) 安値 163.82 高値 166.84 終値 166.09



4. 豪ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 小林 元子

(1) 今週の予想レンジ: 0.6650 ~ 0.6950 88.00 ~ 91.50 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は、上昇トレンドとなるも、週末に反落。10日、0.6670台でオープンし、イースターマンデーで欧州市場の多くが休場で薄商いの中、狭いレンジでもみ合い推移。海外時間に入り、米中対立の緊張が高まるヘッドラインにリスクオフの値動きとなり、一時週安値0.6620まで下落後、0.6642でクローズした。11日、0.6640近辺で取引開始後、豪4月消費者信頼感が大幅に改善したことや、堅調なアジア株などを背景に、買いが優勢。「中国が豪州産大麦への制裁関税を見直すことで両国合意」とのヘッドラインもサポート材料となり一時0.6680まで上昇し、0.6654で引けた。12日、注目されていた米3月CPIはヘッドラインが前月比、前年比ともに市場予想を下回ったことから、発表後に米ドルは売りで反応し、一時0.6722まで上昇。一方で、コア指数は事前予想通りだったものの前年比ベースでは前回よりも0.1%伸びが加速する結果を受けて、米ドルは売り一巡後次第に買い戻し優勢となり、豪ドルは0.6680近辺まで下落。その後、ハト派色の強い3月FOMC議事要旨が発表されると米ドルは再び売り優勢となり、豪ドルは0.6690近辺まで買い戻されて引けた。13日、豪3月雇用統計では雇用者数が予想を上回り、失業率は前月から変わらず50年ぶり低水準近辺を維持。豪金利上昇を背景に、豪ドルは0.6720近辺まで上昇。海外時間でも、発表された米3月PPIが予想を下回りFRBの利上げサイクル終了が近いとの観測が強まったことで米株価が急伸したことも豪ドルのサポート材料となり、高値圏0.6784で引けた。14日、海外時間に米3月小売り売上高(前月)が予想を下回り、発表直後に豪ドルは瞬間的に週高値となる0.6808まで上昇。しかしその後、米コアの小売り売上高が予想ほど悪化しておらず、さらに米3月鉱工業生産(前月比)も予想を上回り、インフレ減速の手掛かりが見当たらなかったためか、すぐにドル買いに転じる。その後、ウォラーFRB理事が「金融政策は一段の引き締めが必要」と述べたことや、米4月ミシガン大学消費者マインド指数や1年期待インフレ率が予想を上回った事がドル買いに拍車をかけ、豪ドルは急反落し、この日の安値となる0.6709で越週した。

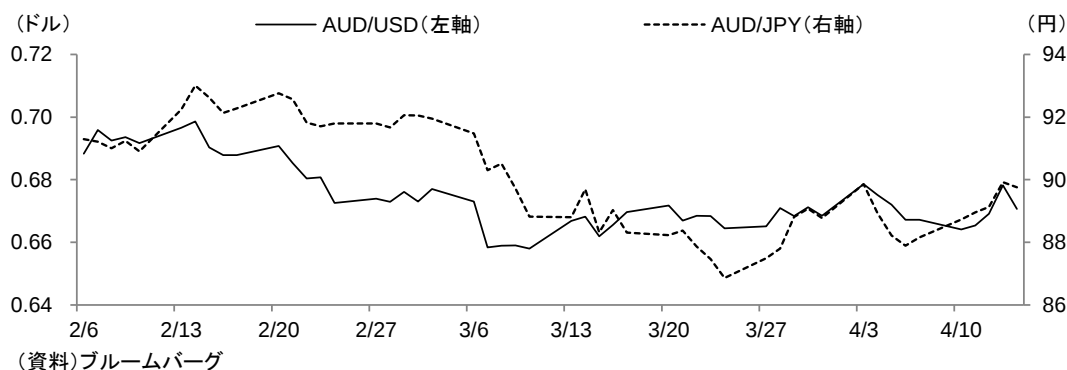
今週の豪ドル相場は底堅い展開を予想する。豪3月雇用統計において雇用者数について、正規雇用者数を中心に予想を大きく上回る増加となったことを受けて、豪労働市場の力強さが確認され、豪準備銀行の追加利上げの再開への期待が浮上。また、株価やオイル価格の堅調推移もサポート材料と考えられ、今週の豪ドルについては引き続き堅調推移となろう。今週は18日(火)に4月RBA議事要旨、19日(水)に豪3月ウェストパック景気先行指数、20日(木)に豪1~3月期NAB企業信頼感の発表が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(4/10~4/14)の値動き:

(対ドル) 安値 0.6620 高値 0.6808 終値 0.6709

(対円) 安値 87.92 高値 90.18 終値 89.76



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。